
ワンダードリームを救う旅

ルキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワンダードリームを救う旅

【Nコード】

N5280J

【作者名】

ルキ

【あらすじ】

ある日、異世界『ワンダードリーム』に連れてこられた中学生の少女、レイがその世界を救うことになるまでのお話。

続き、『とある少女の異世界勇者日記』が連載始めました！『とある少女の異世界勇者日記』 <http://ncode.syosetu.com/n0431k/1/>

ガチャ

「…え？」

買い物から帰って来て全く知らない変な人が自分の部屋でくつろいでいるのを発見してしまった、この物語の主人公で黒髪の少女。部屋の中にいた変な人は本当に変で、なんか猫耳や尻尾がくつついていた。しかも部屋をジロジロと見回していた。

「ん、お前がこの家の住人の『レイ』か？」

「あ、はい。そうですけど…泥棒さんですか？」

頷き、一番気になることを聞いた少女、レイ。すると、

「泥棒に入る家の住人に名前を聞くような泥棒はいないんじゃないか…？」

変人は泥棒であることを否定した。

「じゃあ誰ですか？変人さん。」

「ヘルツⅡフェイトだ。変人じゃない。俺のどこを見てそんな事を言っているんだ？」

この世界に合わせた服装で着たつもりなのだが…と、つぶやきながら変人、ヘルツが聞いた。

「耳。尻尾。」

簡潔に答えるレイに、

「…そうか。そうだよな、この世界にはいないもんな。こんな人。」

言いながら少し落ち込むヘルツ。

「って、そんな事どうでもいいんです!」

「ど、どうでも…」

さらに落ち込むヘルツ。頭に10tの石がのっけているように見える。

「なんで僕の部屋にいるのさ!？」

その言葉にハツとなったヘルツは

「そうだった。危うく忘れるところだった。と、いうことでまた後でな。」

ダンッ

「うっ…。」

バタリ

レイは蹴りをくらい、そのまま意識を失った。

—*—*—*—*—*—*—

「いてて…。」

レイはむくりと起き上り、見たことのない景色を見回した。

「JJJ、JJJ?」

「お、気づいたか??」

声が出たほうを見るとヘルツがいた。

「…ヘルツ、僕の事蹴ったよね?」

ヘルツを見ると同時にレイからすごい殺気が溢れ出た。

「ちょ…落ち着いてくださいよレイさん??」

ビビリだしたヘルツ。

「気絶、させたよね??」

「あ、あれはっ、仕方なかったんです!すみません!」

ヘルツは、どんだんドス黒くなっていく殺気に敬語になってしまった。するとそこで

「じほんっ」

と空気を読まない声が聞こえた。

「……？」

レイは無表情でそちらを向いた。その行動にホッと胸をおろすヘルツ。

「さつきから無視されて入りづらかったんだが…もういいかな？」

重々しい口調でいつの間にか現れた白髪のおじいさんが言った。

「さつきからおったぞ！」

…ハイ。存在感薄くて気づきませんでした。

（…いたんだ…。）

心の中で驚く二人。

「あ、ここは一体どこですか？」

「ここはわし、ケイトの秘密基地じゃ。」

（子供かよっ！）

おじいさん、ケイトのセリフにそんな事を思うレイ。

「では、なんで僕はここに連れてこられたんですか？」

「それはこの世界、『ワンダードリーム』を救ってもらったためだ。」

「…へ？」

「今わたしの世界は滅亡の危機におちいつているのじゃ。なぜか知らんが星が落ちてくるわ月や太陽や他の名も知らぬ惑星が近づいてきたりそれらがこの惑星と衝突するとされている日時が同じだったり…とにかく大変な…」

「だから何ですか？」

「いや、世界を救えって言ってるの！！」

レイはどんどん進む話にいらついてきて話を止めると、ヘルツとケイトにつっこまれた。

「それよりも僕がいた世界に戻してください。」

「それよりもって…俺らにとっては危機なんだぞ!？」

「ヘルツ達が頑張ればいいんじゃない？」

「俺らの力だけじゃ無理なんだ。」

「そうじゃー!」

「しっ愁傷様。」

「「おいっ!」」

「…チッ」

レイよりもいらついできたケイトが舌打ちをし、早くすませよう

「世界を救うのなら願い事をかなえてやるぞ?」

と言っても、

「帰らせる。」

世界を救おうとしないレイ。

「じゃ、強行手段じゃな。」

ケイトは説得することを諦めてしまった!

「「は?」」

「できるものならやってみろ!」

なんだが男らしくなってきたレイと、

「強行手段!?そんなのあるか!聞いてませんよ!」

驚くヘルツ。すると、

パカッ

レイとヘルツが立っていた場所に穴が空き、

「きゃあああああつ!?!」

「うわあつ!?!」

落ちていく二人。そんな二人を眺めながらケイトは

「じゃーなつ。世界を救ったら元の世界に戻してやるぞ。あ、これは旅に必要そうなものじゃ。」

といいながら穴に何かを投げ入れ

「〜」

鼻歌を歌いながら去って行った。

「なんで俺までえええええ!?!」

なぜか一緒に落とされた可哀そうなヘルツと、

「僕この世界と関係ないよねえええええ!?!」

いまだになぜ自分が連れてこられたのか分からない可哀そうなレイでした。

—*—*—*—*—*—*—

こうしてワンダードリームとは何の関係ない少女、レイの世界を救
う旅が始まったとさ

(後書き)

楽しんでくださいましたか?? いただけたなら光栄です

続編を待っていてくださった方、お待たせしました!

この作品の続き、『とある少女の異世界勇者日記』が連載開始しました!

どうぞ、よろしく願います。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5280j/>

ワンダードリームを救う旅

2010年10月15日22時29分発行